

フリーハグについて  
——日本での広まり——

学籍番号 19061048  
中 林 真 理

指導教員：立木茂雄

## 目次

1 はじめに.....	2
2 フリーハグの概要と歴史.....	3
2.1 フリーハグとは何か.....	3
2.2 フリーハグの歴史.....	3
3 フリーハグ体験.....	4
3.1 2009年10月29日.....	4
3.2 フリーハグ体験から.....	7
4 mixi ログ分析.....	7
4.1 mixi のコミュニティについて.....	7
4.2 コミュニティの書き込み件数の推移.....	9
4.3 新聞・雑誌記事から.....	11
4.4 イベント数の比較.....	11
5 おわりに.....	12
参考文献.....	25

# フリーハグについて

——日本での広まり——

中 林 真 理

- 1 はじめに
  - 2 フリーハグの概要と歴史
    - 2.1 フリーハグとは
    - 2.2 フリーハグの歴史
  - 3 フリーハグ体験
    - 3.1 2009年10月27日
    - 3.2 フリーハグ体験から
  - 4 mixi ログ分析
    - 4.1 書き込み数の推移
    - 4.2 分析結果
  - 5 おわりに
- 参考 URL

## 1 はじめに

「フリーハグ」と聞いて、その存在を知る人は、学生の間では5割ぐらいだろうか。それ以外では、「何それ？」という反応がかえってくる。年配の方であれば、知らない人の割合の方が多くなるかもしれない。

私がフリーハグを知ったのは、約3年前のことである。「探偵！ナイトスクープ」という関西のテレビ番組である。「フリーハグをしてみたい」という男性が、実際に大阪の街で「フリーハグ/ハグしてくれませんか」と書いたボードを持ち、ハグしてくれる人を待っていた。なかなかハグしてくれる人が現れなかったが、やっと通りがかかった中年の女性とハグすることができた。その後も次々に通りかかった人とハグをしていた。その時、私は見ず知らずの人とハグをする映像に驚き、衝撃を受けた。その時以来、「フリーハグ」とは一体何なのか、という疑問を持っていた。そして卒業論文を書くにあたり、フリーハグとは何なのか、調査したいと思った。また、同時にフリーハグを体験してみようと思ったのである。

ぬ人々とハグ(抱擁)をして、素晴らしい何か(愛・平和・温もりなど)を生み出す活動である。フリーハグの目的は一つではない。それはフリーハグを行う人それぞれが違う考え方を持って活動しているためである。フリーハグをした時に感じるものは人それぞれ異なる。それを愛や平和や幸せなど一つの言葉でまとめる・強要するのではなく、ハグする人・した人が自由に感じ、そして想う。それがフリーハグである。お互いに心から素直に笑顔になって、そしてそれぞれが自由に『何か』(愛・平和・人の温もり・他人との繋がり・癒し)など、言葉にできないたくさんの素晴らしい事を感じる事。それを相手に強要するのではなく、心で共有する事。言葉で確認する必要もなく相手の笑顔を見ればそれが伝わってくる。フリー・ハグズの目的はハグする事ではない。肉体的な接触による安心感と言うものもあるが、そうではない部分が重要なのである。

## 2.2 フリーハグの歴史

2001年、アメリカのジェイソン・ハンター氏が始めた活動である。彼は母親の死後「free hugs」と書かれたプレートを持ってマイアミの海岸を歩いた。それは、多くの人に愛された母親を亡くし、ジェイソン氏が大切なことに気付いたからである。彼の母親は、たくさんの人々を抱きしめ、どんなに"あなた"が大切であるかを伝える素敵なお人であった。そしてジェイソン氏は「私たちの仕事はなんであれ、私たちにできる大切なことは、私たちが自ら歩み寄ることによって他者を助け、励ますことではないか」「親切で励みになる行動が、私たちの日常に変化を与えてくれるだろう」

それを示す行動がフリー・ハグズであり、ジェイソン氏はこのメッセージを多くの人に伝えようとフリー・ハグズというプレートを持ってマイアミの浜辺を歩き始めた。これがフリーハグの始まりである。多くの人々がオーストラリア発祥だと勘違いしているようだ。

2002年に始まり日本で有名になる 2006-2007年までにアメリカではさまざまなメディアで取り上げられている。日本で有名になったきっかけは2006年9月22日にYouTubeに公開され、2006年12月までに1500万もの閲覧を獲得してきた動画である。Sick Puppies - All The Same - YouTube (Adobe Flash video)この動画は2007年のYouTubeインスピレーション部門でビデオアワードを受賞している。そのためか多くの人々がこの動画がフリー・ハグズの発祥だと勘違いしている。

また、国際ナショナルフリーハグデーというものがある。フリー・ハグズ・キャンペーン公式ウェブサイト上のフォーラムの参加者たちは、公式の「国際フリー・ハグズの

にどんな人とハグするかによってフリーハグの印象が違ってくると思うよ。一人目が大事なかな。」

女子高生がこちらを見ながら、笑っていた。

「手広げてみて」

手を広げてみると女子高生がかけよって来て、私にハグをした。女子高生とハグした後。

「どう？感想は？けっこういいスタートが切れたんじゃない？さっきみたいにこっち見て、笑ってる人とか、フリーハグ知ってる人とか、行こうか迷ってそうな人には、こっち側が笑顔で手を広げたらハグしに来てくれるよ。」

Mさんがフリーハグを始めたきっかけを聞いてみた。

「Youtubeで見て感動して、泣いた。これはやるしかない！って思って始めました。まりさん何見てやろうと思ったんですか？世界でフリーハグとか？youtubeは見た？」

話をしていると、男性がやってきて「何の活動やってるんですか？」と聞いてきた。

「フリーハグです。ハグしませんか？という活動です。知らない人同士ですけど、ハグすることであたたかい気持ちになったり笑顔になれるからです。」

男性続いて質問「何の団体ですか？」

「団体ではなくて、個々が集まってるんです。mixiの掲示板に今日やりますって書き込んで、それに人が集まったって感じです。」

男性は納得した顔で「じゃあ最後にせっかくだから」と言ってそこにいたボードを持っていた全員とハグをして帰っていった。

「さっきみたいに、フリーハグやってたら絶対に、何でやってるんですか？って聞かれるよ。変に誤解されないように説明できるようにしといた方がいいよ。宗教とかナンパ目当てとか思われないように。間違った情報が広まったら困るでしょう。」

そのような話を聞きながら続けて立っていると、mixiを見て、フリーハグをやると知った人々が続々とやって来た。最終的には15名ほどが横一列に並び、ボードを持っていた。うち、8名はフリーハグ初体験者であった。初体験者が全体の半数以上であったのには驚いた。

また、フリーハグ終了後、解散前に主催者のマーさんからひとことあった。

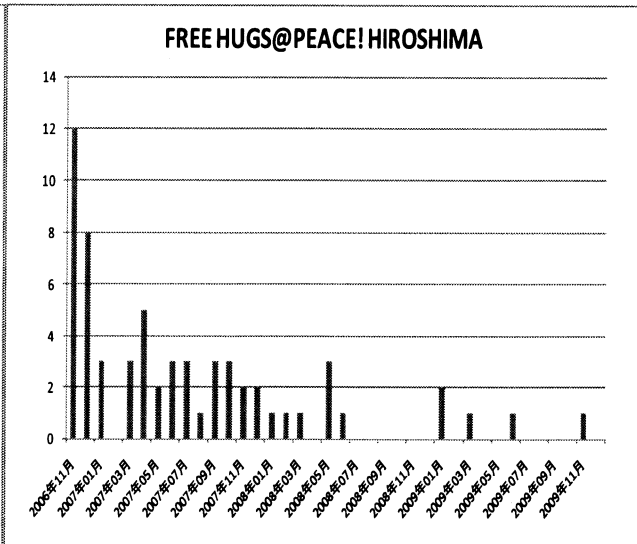
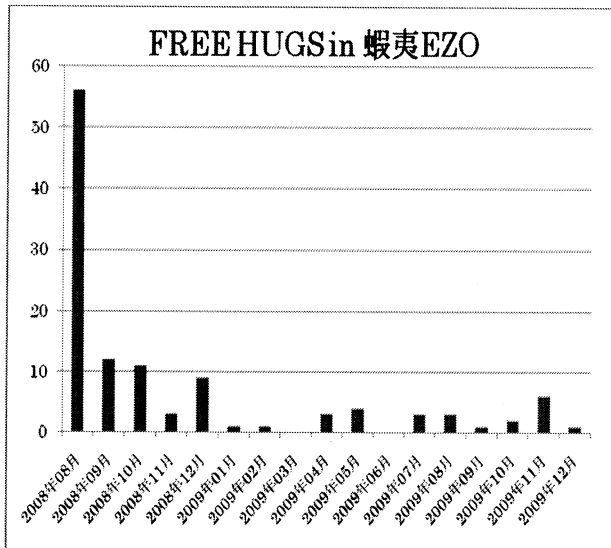
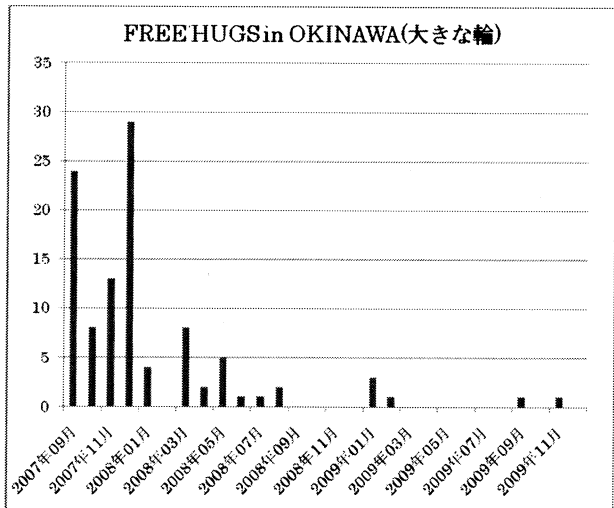
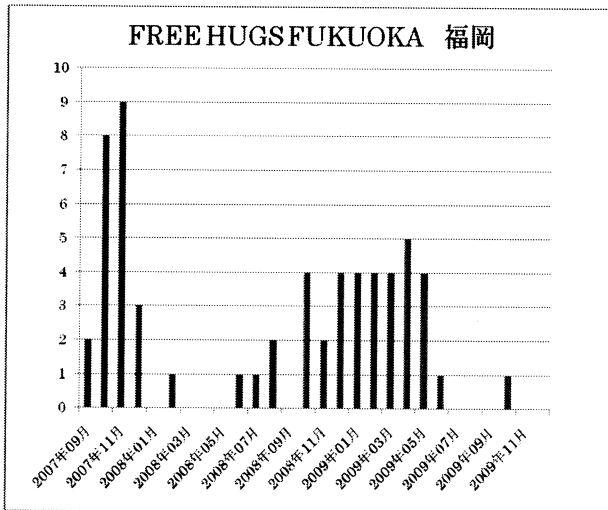
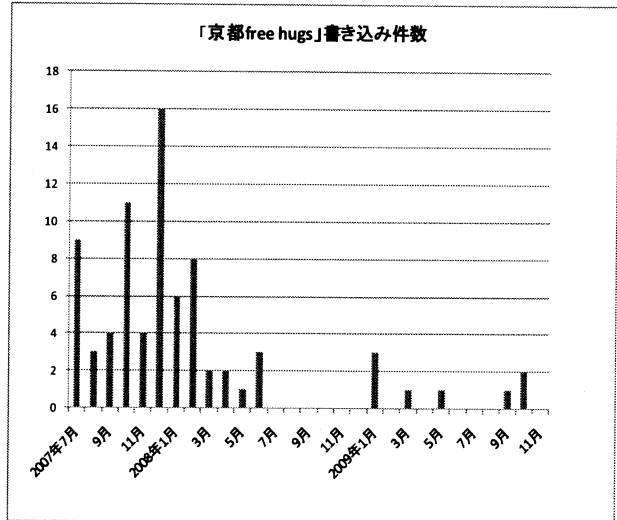
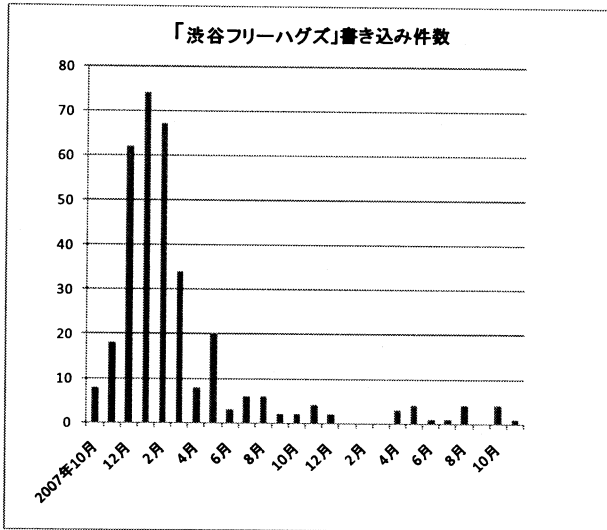
「今日はお疲れ様でした。僕の本名が〇〇〇〇なので、mixiで検索してください。良かったらマイミクになりましょう」

その後、Mさんとマイミクになった。また、フリーハグに集まった人同士でもmixi上で

#### 4.1 mixi のコミュニティについて

mixi のコミュニティを調査する以前は、ウェブでの一般ブログの検索をしていた。ブログの検索をかけたが、最終更新日が随分と過去のものであったり、記事の少なさが目についた。そこでフリーハグの公式サイトには「mixi でコミュニティが多数存在する」との文があったので、mixi での検索を開始することにした。すると、やはり、ブログよりも最新の更新があった。現在では、フリーハグの活動は、主に mixi 上で呼び掛け、開催しているのだと思われる。以後、mixi のログの分析を始めることにした。まず「フリーハグ」と検索して、初めて出てくるのが「世界でフリーハグ」というコミュニティである。フリーハグのコミュニティは数え切れないほどある？がそのなかでも断トツに参加者数が多い。5531 人である。そのコミュニティの紹介文には「「抱きしめ自由」なノリで"FREE HUGS"と書かれたボードで街に立ち見知らぬ人と同意の上で抱きしめあうキャンペーン♪もう街でハグしたよ♪この前テレビでやってた☆見かけたことあるけど何？聞いたけどよくわからない...そんな方でもこれからどうぞ」と書かれている。トピックには世界中でのハグ体験や報告、youtube の動画や画像の貼り付けがなされている。また、イベントが、地域別にトピックがつけられている。地域は次の 13 区分。東海、北海道、大阪、九州・沖縄、四国、中国地方、東北、東京、愛知、近畿、信越・北陸、福岡、関東。それぞれ、書き込み数は多いが、「フリーハグに参加してみたい」という書き込みがほとんどで、「フリーハグをやる」という書き込みをしている人は限られている。また、「フリーハグをする」と書いている人は、それぞれの地域のコミュニティの方で主に活動募集している。「北海道コミ」がありますので、よかったですこちらも寄ってみてください」「FREE HUGS in Okinawa ってコミュの管理人してます！今日の 13 時から三越前でやります☆」「大分のフリーハグコミュニティー作りました一緒に一歩を踏み出しましょう☆FREE HUGS☆」「開催日時 2009 年 11 月 26 日(開催時刻 18:30~21:30) 開催場所 東京都(渋谷ハチ公前広場) ※雨天中止 上記日時に渋谷ハチ公前広場にてフリーハグを開催致します。参加希望のメンバーの方は成瀬へ[メッセージ]を送って下さい。フリーハグ用のボードは必要枚数、現地まで持って行くので 参加される方は手ぶらで気軽に参加出来ますのでご安心下さい。参加者全員にステッカー or 缶バッジを差し上げます..°+.ゝ(∇`\*)」など、地域別コミュニティでの活動募集が主となっていることがうかがえた。そのため、地域別コミュニティで比較、検証することを考えた。

間にも書き込み数の増加が見られる。ここでの要因も同様にテレビ番組である。この番組は九州のみでの放送「ドオーモ」という番組である。特に、福岡でのフリーハグの様子が特集されたことで、福岡の書き込み件数も増加したと思われる。



また、このようなイベントを開催する人というのがほぼ決まっていることが分かる。たいていが、コミュニティの管理人である。イベント開催者によって、開催日時などの書き込みがある。その中に次のような書き込みがあった。

「これらのイベントは  
 やりたいけど一人はいやだ  
 初めてだから誰かやったことのある人とやりたい  
 という人のために意図的に毎回作成しています  
 私は人数関係なく  
 正しく楽しくフリーハグがしたい  
 そう思っています」

—  
 というものだ。はじめての人と、常連の人という構成でなっている。それは、私が渋谷でフリーハグをした時もそうであった。はじめての人が多数、それに対して、核となる常連の人がいる。という構図である。

—  
 また、核となる人が活動が続けることによって、通りかかった人はフリーハグの存在を知ることになる。存在を知った人は自分もフリーハグする側になりたいと思う。私と同じように mixi のコミュニティの存在を知る。参加する。初めて参加する。参加すると楽しい。また機会があれば参加したい。機会というのはなかなかめぐってこない。結果、核となる人物が再びイベントをたてる。というサイクルができるのではないかと考えられる。こうしていくことでフリーハグを知る人は増えていくのではないか。それは渋谷に限るかもしれない。マスメディアで取り上げられると認知度は一気に上がるであろうが、このように細々とでも活動が続ける人がいる限り、フリーハグの存在は知らされていくのではないか。実際にフリーハグをやっていて、幾度となく、「なんの活動ですか？」という質問を聞かれる。興味を持った人は次に「何の掲示板ですか？」と参加したい欲求がわく。また、飛び入りで参加する人も多数いた。興味を持ってもらうために、フリーハグに対する正しい解釈や知識が必要である。正解は無いが、

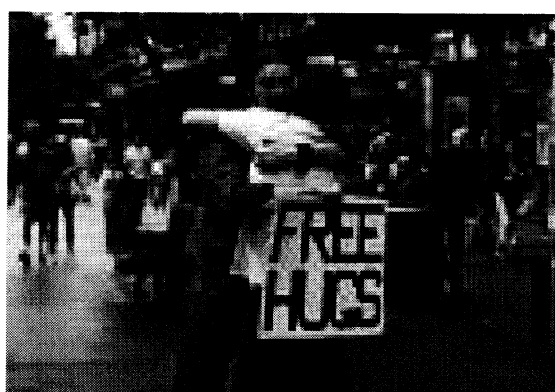
## 5 おわりに



か、調査したいと思った。また、同時にフリーハグを体験してみようと思ったのである。

しかし、フリーハグに関する先行文献などは一切見当たらなかった。文献調査を行うには非常に困難であると思われた。そこで、インターネットでの情報が重要である。しかし「フリーハグ」と yahoo! 検索してみると、約 206000 件もの数がヒットする。多大な情報の中から、調査をすることになった。検索結果の一番目には wikipedia の情報が表示される。その次に「FREEHUGS@Japa(FREE HUGS in JAPAN)」というサイトが表示される。そのサイトを開いてみる。すると「mixi に各地方で展開している活動内容のトピックが立っていますので、ご存知の方は一度コミュニティを覗いてみるといいかもしれません。」との文があった。そのため、mixi<sup>1)</sup>での書き込み等、これらの情報を利用することにした。

本論文の構成としては、はじめに「フリーハグと何か？」というフリーハグの概要と歴史をたどり、フリーハグの理解を深めたい。次に、私自身のフリーハグ参加体験を記述する。それから、上述したように、mixi での情報から調査したことやメディアでの取り上げ方を述べ、「フリーハグの日本での広まり」について考察したい。また、フリーハグ、free hugs、フリーハグズ、というように呼び方や表記は様々ある。本論文では、私が述べる場合は「フリーハグ」と表記する。



## 2 フリーハグの概要と歴史

### 2.1 フリーハグとは何か

ここでは、フリーハグとは何か、というフリーハグの概要について述べる。「フリーハグ」、直訳すると「無料の抱擁」。あるいは「ご自由に私を抱きしめて」という風にも訳すことができる。街中で、プラカードみたいのを掲げて、見知らぬ人が同意し

ペーン公式ウェブサイト上のフォーラムの参加者たちは、公式の「国際フリー・ハグズの日」を宣言することに決めた。日時は2007年の7月7日、土曜日（もっときっぱり言うと、7/7/7の日だ）と設定されている。この日を設ける目的は、フリー・ハグズ・キャンペーンの存在を人々に知らしめるためなのだ。運営者たちはこの日、世界中の何百もの人たちがフリー・ハグズに携わってくれることを望んでいる。公式とあるが、このサイトはオーストラリアのホアン・マンの個人サイトであり公式サイトではない。公式サイトと呼べるものは存在しない。ジェイソン氏がコメントして、自身のMYSPEACEに載せているのはこのサイトである。

## 1 はじめに

「フリーハグ」と聞いて、その存在を知る人は、学生の間では5割ぐらいだろうか。それ以外では、「何それ？」という反応がかえってくる。年配の方であれば、知らない人の割合の方が多くなるかもしれない。

私がフリーハグを知ったのは、約3年前のことである。「探偵！ナイトスクープ」という関西のテレビ番組である。「フリーハグをしてみたい」という男性が、実際に大阪の街で「フリーハグ/ハグしてくれませんか」と書いたボードを持ち、ハグしてくれる人を待っていた。なかなかハグしてくれる人が現れなかったが、やっと通りがかった中年の女性とハグすることができた。その後も次々に通りかかった人とハグをしていた。その時、私は見ず知らずの人とハグをする映像に驚き、衝撃を受けた。その時以来、「フリーハグ」とは一体何なのか、という疑問を持っていた。そして卒業論文を書くにあたり、フリーハグとは何なのか、調査したいと思った。また、同時にフリーハグを体験してみようと思ったのである。

しかし、フリーハグに関する先行文献などは一切見当たらなかった。文献調査を行うには非常に困難であると思われた。そこで、インターネットでの情報が重要である。しかし「フリーハグ」とyahoo!検索してみると、約206000件もの数がヒットする。多大な情報の中から、調査をすることになった。検索結果の一番目にはwikipediaの情報が表示される。その次に「FREEHUGS@Japa(FREE HUGS in JAPAN)」というサイトが表示される。そのサイトを開いてみる。すると「mixiに各地方で展開している活動内容のトピックが立っていますので、ご存知の方は一度コミュニティーを覗いてみるといいかもしれません。」との文があった。そのため、mixi<sup>®</sup>での書き込み等、これらの情報を利用することにした。

ものもあるが、そうではない部分が重要なのである。

## 2.2 フリーハグの歴史

2001年、アメリカのジェイソン・ハンター氏が始めた活動である。彼は母親の死後「free hugs」と書かれたプレートを持ってマイアミの海岸を歩いた。それは、多くの人に愛された母親を亡くし、ジェイソン氏が大切なことに気付いたからである。彼の母親は、たくさんの人々を抱きしめ、どんなに"あなた"が大切であるかを伝える素敵な人であった。そしてジェイソン氏は「私たちの仕事はなんであれ、私たちにできる大切なことは、私たちが自ら歩み寄ることによって他者を助け、励ますことではないか」「親切で励みになる行動が、私たちの日常に変化を与えてくれるだろう」

それを示す行動がフリー・ハグズであり、ジェイソン氏はこのメッセージを多くの人に伝えようとフリー・ハグズというプレートを持ってマイアミの浜辺を歩き始めた。これがフリーハグの始まりである。多くの人がオーストラリア発祥だと勘違いしているようだ。

2002年に始まり日本で有名になる 2006-2007年までにアメリカではさまざまなメディアで取り上げられている。日本で有名になったきっかけは2006年9月22日にYouTubeに公開され、2006年12月までに1500万もの閲覧を獲得してきた動画である。Sick Puppies - All The Same - YouTube (Adobe Flash video)この動画は2007年のYouTubeインスピレーション部門でビデオアワードを受賞している。そのためか多くの人がこの動画がフリー・ハグズの発祥だと勘違いしている。

また、インターナショナルフリーハグデイというものがある。フリー・ハグズ・キャンペーン公式ウェブサイト上のフォーラムの参加者たちは、公式の「国際フリー・ハグズの日」を宣言することに決めた。日時は2007年の7月7日、土曜日（もっときっぱり言うと、7/7/7の日だ）と設定されている。この日を設ける目的は、フリー・ハグズ・キャンペーンの存在を人々に知らしめるためなのだ。運営者たちはこの日、世界中の何百もの人たちがフリー・ハグズに携わってくれることを望んでいる。公式とあるが、このサイトはオーストラリアのホアン・マンの個人サイトであり公式サイトではない。公式サイトと呼べるものは存在しない。ジェイソン氏がコメントして、自身のMYSPEACEに載せているのはこのサイトである。

## 3 フリーハグ体験

「Youtube で見て感動して、泣いた。これはやるしかない！って思って始めました。まりさん何見てやろうと思ったんですか？世界でフリーハグとか？youtube は見た？」

話をしていると、男性がやってきて「何の活動やってるんですか？」と聞いてきた。

「フリーハグです。ハグしませんか？という活動です。知らない人同士ですけど、ハグすることであたたかい気持ちになったり笑顔になれるからです。」

男性続いて質問「何の団体ですか？」

「団体ではなくて、個々が集まってるんです。mixi の掲示板に今日やりますって書き込んで、それに人が集まったって感じです。」

男性は納得した顔で「じゃあ最後にせっかくだから」と言ってそこにいたボードを持っていた全員とハグをして帰っていった。

「さっきみたいに、フリーハグやってたら絶対に、何でやってるんですか？って聞かれるよ。変に誤解されないように説明できるようにしといた方がいいよ。宗教とかナンパ目当てとか思われないように。間違った情報が広まったら困るでしょう。」

そのような話を聞きながら続けて立っていると、mixi を見て、フリーハグをやると知った人々が続々とやって来た。最終的には 15 名ほどが横一列に並び、ボードを持っていた。うち、8 名はフリーハグ初体験者であった。初体験者が全体の半数以上であったのには驚いた。

また、フリーハグ終了後、解散前に主催者のマーさんからひとことあった。

「今日はお疲れ様でした。僕の本名が〇〇〇〇なので、mixi で検索してください。良かったらマイミクになりましょう」

その後、Mさんとマイミクになった。また、フリーハグに集まった人同士でも mixi 上でもメッセージを送りあったり、マイミクになったりの行動を起こす。私も、同じくフリーハグ初体験であった 2 名とマイミクになり、一人とはメッセージのやりとりをしていた。フリーハグの目的の一つに「交流関係を広げたい」と書き込む人がいることも納得できる。

また、フリーハグにはルールのようなものがある。

「ルールって言うのは特にないんですけど、ハグは自分からしに行くんじゃなくて、相手から来てくれるのを待つ感じで。イケメンいるからハグしに行くとか無しでお願いしますね。」「あと、通行の妨げにならないように、(行動範囲は)この白いタイルの中だけにしてください。」

許可は取ってないのか、という質問に対して。

5531人である。そのコミュニティの紹介文には「抱きしめ自由」なノリで"FREE HUGS"と書かれたボードで街に立ち見知らぬ人と同意の上で抱きしめあうキャンペーン♪もう街でハグしたよ♪この前テレビでやってた☆見かけたことあるけど何？聞いたけどよくわからない...そんな方でもこれからどうぞ」と書かれている。トピックには世界中でのハグ体験や報告、youtubeの動画や画像の貼り付けがなされている。また、イベントが、地域別にトピックがつけられている。地域は次の13区分。東海、北海道、大阪、九州・沖縄、四国、中国地方、東北、東京、愛知、近畿、信越・北陸、福岡、関東。それぞれ、書き込み数は多いが、「フリーハグに参加してみたい」という書き込みがほとんどで、「フリーハグをやる」という書き込みをしている人は限られている。また、「フリーハグをする」と書いている人は、それぞれの地域のコミュニティの方で主に活動募集している。「北海道mixi」がありますので、よかったらこちらも寄ってみてください」「FREE HUGS in Okinawa ってコミュの管理人してます！今日の13時から三越前でやります☆」「大分のフリーハグコミュニティー作りました一緒に一歩を踏み出しましょう☆FREE HUGS☆」「開催日時 2009年11月26日(開催時刻 18:30~21:30) 開催場所 東京都(渋谷ハチ公前広場) ※雨天中止 上記日時に渋谷ハチ公前広場にてフリーハグを開催致します。参加希望のメンバーの方は成瀬へ[メッセージ]を送って下さい。フリーハグ用のボードは必要枚数、現地まで持って行くので参加される方は手ぶらで気軽に参加出来ますのでご安心下さい。参加者全員にステッカーor缶バッジを差し上げます。°+.バ(▽\*)」など、地域別コミュニティでの活動募集が主となっていることがうかがえた。そのため、地域別コミュニティで比較、検証することを考えた。

### 3 フリーハグ体験記

#### 3.1 フリーハグとの出会い

この論文を書くにあたって、自分自身もフリーハグを体験しようと思った。mixiにコミュニティがあることを知った私は、まず、「フリーハグ」と検索してみた。すると「渋谷 free hugs」というコミュニティで、2009年10月27日にフリーハグをするという書き込みがあり、参加者を募っていた。私は、参加するとの書き込みを残し、東京へ向かった。

「団体ではなくて、個々が集まってるんです。mixi の掲示板に今日やりますって書き込んで、それに人が集まったって感じです。」

男性は納得した顔で「じゃあ最後にせっかくだから」と言ってそこにいたボードを持っていた全員とハグをして帰っていった。

「さっきみたいに、フリーハグやってたら絶対に、何でやってるんですか？って聞かれるよ。変に誤解されないように説明できるようにしといた方がいいよ。宗教とかナンパ目当てとか思われぬように。間違った情報が広まったら困るでしょう。」

そのような話を聞きながら続けて立っていると、mixi を見て、フリーハグをやると知った人々が続々とやって来た。最終的には 15 名ほどが横一列に並び、ボードを持っていた。

うち、8 名はフリーハグ初体験者であった。初体験者が全体の半数以上であったのには驚いた。

また、フリーハグ終了後、解散前に主催者のマーさんからひとことあった。

「今日はお疲れ様でした。僕の本名が〇〇〇〇なので、mixi で検索してください。良かったらマイミクになりましょう」

その後、マーさんとマイミクになった。また、フリーハグに集まった人同士でも mixi 上でもメッセージを送りあったり、マイミクになったり行動を起こす。私も、同じくフリーハグ初体験であった 2 名とマイミクになり、一人とはメッセージのやりとりをしていた。フリーハグの目的の一つに「交流関係を広げたい」と書き込む人がいることも納得できる。

また、フリーハグにはルールのようなものがある。

「ルールって言うのは特になんですけど、ハグは自分からしに行くんじゃなくて、相手から来てくれるのを待つ感じで。イケメンいるからハグしに行くとか無しでお願いしますね。」「あと、通行の妨げにならないように、(行動範囲は)この白いタイルの中だけにしてください。」

許可は取ってないのか、という質問に対して。

「ボードは体の一部として考えるので、通行の妨げになったり、なんか商売するわけじゃないんで、特に許可はいらないんです。」

書き込みによると、

「渋谷 FreeHugs ルール

- ・ 通行の邪魔しない
- ・ ハグを希望して来た方へのみハグ



## 要約

フリーハグの認知度は日本人口と比べるとまだまだ低いですが、それでもハグが習慣としてない日本で各地でフリーハグが行われているという事実は注目すべきである。どのようにしてこのフリーハグが広まったのか、ということについて考察した。フリーハグが広まる2つの軸がある。一つ目は、テレビ番組や新聞などのメディア媒体である。一度に多くの人々が視聴し、関心を向けることができる。二つ目は、コミュニティの活動である。コミュニティ内の核となる人物(主に管理人)の継続的な活動により、通りかかった人が興味を持つことになる。大きなブームは去ったと見られるフリーハグだが、二つ目のコミュニティの活動によって、今後少しずつ広まる可能性はあるのではないかと。

## キーワード

マスメディア、コミュニティ、コミュニケーション